

2日目 7月14日

会 場： 県立浜山球場

第2試合	～1回戦～ (7回コールド)																			
T E A M	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	R	H	E		
出雲工業	0	0	0	0	1	0	1									2	6	1		
出雲西	4	1	2	0	0	1	1x									9	8	1		
(投手-捕手)																				
・ (出工)	北脇→小村→岩垣 - 浅野																			
・ (出西)	高橋 - 下原																			
(長 打)	(二塁打)						(三塁打)						(本塁打)							
・ (出工)																				
・ (出西)	平井、中島																			
(審判) [球審]	羽柴			〔一塁〕 福岡				〔二塁〕 三浦				〔三塁〕 野原								
(チーム成績)																				
チーム	打	安	点	二	三	本	振	四	犠	盗	残	併	守	備	失	暴	ボ	逸	打	妨
(出工)	29	6	2	0	0	0	9	2	1	0	6	1			1	3	0	0	0	0
(出西)	38	8	8	2	0	0	4	11	4	1	10	1			1	0	0	0	0	0

「出雲西、序盤の集中打で初戦を飾る！」

大会2日目浜山会場の第2試合には秋季大会準優勝の実力校、出雲西が登場した。対戦相手の出雲工業も上位進出こそ逃しているものの、力強い速球を投げる投手を要しており両投手からいかに点を取るかが注目される試合だった。雨でグラウンド状態がかなり悪い状態の中での試合となった。

試合は初回から出雲西の一方的な展開となった。1回裏、失策と犠打、四球で1死1・2塁と出雲工業先発の北脇の立ち上がりを攻め、4番田中がライトへの安打を放つと2塁走者が巧く捕手のタッチをかいぐり先制に成功する。死球で1死満塁とし、6番三成のライトへの適時打で2点を追加する。更に7番高橋の犠飛もあり、初回から4点をリードし先発投手を降板させる。

攻撃の手を緩めない出雲西は、2回裏にも2死1塁から3番の平井がレフト越しの適時2塁打で1点を追加し、3回裏も2個の小技を絡めながら2個の押し出し四死球を選び、前半3回で6点のリードを奪った。

一方の出雲工業も5回表に出雲西のエース高橋を捉え、2本の安打で1死2・3塁の好機を作ると、相手遊撃手の野選の間に1点を返す。尚も1死満塁とするが後続が続かなかった。それでも7回表に、1番岩垣の犠飛で1点を奪ったが追いつくことは出来なかった。出雲西は6回裏に暴投、7回裏に2番布野のセンター前へ落ちる適時打で追加点を挙げ、7回コールドで初戦を突破した。

